

# 観音寺市立学校再編計画中間取りまとめ案

(市立幼稚園・小学校・中学校の再編計画)

## 【計画案策定の経緯と議論の概要】

### 1. 計画策定にあたって（現状と問題点）

観音寺市には現在、公立幼稚園が8園、小学校が13校、中学校が6校（三豊中学校を含む）ある。これらの学校・園は、一部を除き旧町村単位で設置されたものである。昨今の少子化の進展による幼児・児童・生徒数の減少と、生活形態・都市形態の変化に伴う人口集中地域の移動などもあり、観音寺市においては、クラス替えのない単学級の学校が増えている。さらに近い将来、複式学級化が避けられない学校もあることから、学校の適正配置と望ましい教育環境の維持について議論されるようになってきた。また、校舎や屋内運動場についても、現在の耐震基準を満たさないものが多く、安全・安心の確保の面からも早急な対応が必要となっている。

観音寺市立学校再編計画検討委員会では、こうした状況を踏まえ、子どもたちの安全・安心を確保し健やかな成長を図るという観点から、また、財政事情も勘案して、幼・小・中すべての市立学校の今後の適正な配置のあり方について検討を進めてきた。なお、伊吹地区については、島嶼部という地理的条件を考慮し、今回の再編計画とは別に検討することとし今回の検討対象から除外した。

### 2. 検討委員会の開催状況

回	日付	議題等
1	6月1日	委員の任命、会長・副会長の選任、諮問、会議日程、進め方、会議録の取扱、観音寺市の現状について（説明）
2	6月24日	幼児児童生徒数の将来予想、幼稚園設置基準、財政状況について（説明）。学校再編の基準について（討議）
3	7月16日	学校再編の基準について（討議）
4	8月4日	学校再編の具体的方策について（討議）
5	8月27日	学校再編の具体的方策について（討議）
6	9月25日	学校再編の具体的方策について（討議）
7	10月9日	素案提示。中間答申取りまとめ（討議）
8	10月23日	中間答申取りまとめ（討議）

### 3. 児童・生徒数の現状と推移予測

H20. 5. 1 現在	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	H26 児童予測	H32 児童推計	学級数 H20. 5. 1 現在				備考	耐震化 状況
										単式	複式	特別 支援	計		
観音寺南小	74	80	72	77	70	62	435	419	372	12		2	14	S44. S45. S55 建築 7, 290 m <sup>2</sup>	△
観音寺東小	31	31	47	36	40	35	220	212	200	7		3	10	S39. S49. S50 建築 3, 628 m <sup>2</sup>	×
高室小	25	39	36	43	38	51	232	174	148	8		2	10	S44. S50. S52 建築 3, 805 m <sup>2</sup>	△
常磐小	73	68	53	78	63	78	413	374	346	12		2	14	S54. S61 建築 4, 283 m <sup>2</sup>	△
柞田小	81	81	88	83	94	85	512	478	439	16		3	19	S47. S48. S57 建築 2, 981 m <sup>2</sup>	△
豊田小	27	20	34	35	29	34	179	151	141	6		1	7	S46. 57. H2 建築 3, 428 m <sup>2</sup>	○
粟井小	18	13	18	21	11	15	96	88	63	6		1	7	S31. S53 建築 2, 871 m <sup>2</sup>	△
一ノ谷小	44	38	53	48	33	50	266	273	249	10		1	11	S59. H5 建築 2, 633 m <sup>2</sup>	○
伊吹小	4	2	4	2	2	3	17	13	16	4	1		5		×
大野原小	85	92	76	92	85	98	528	445	408	17		4	21	S60 建築 5, 993 m <sup>2</sup>	○
萩原小	19	16	16	16	13	16	96	76	62	6		1	7	S55 建築 2, 089 m <sup>2</sup>	△
紀伊小	17	8	12	20	13	15	85	57	36	6		1	7	H4 建築 1, 954 m <sup>2</sup>	○
豊浜小	75	65	68	72	91	78	449	373	340	13		3	16	S49 建築 5, 184 m <sup>2</sup>	×
	1 年	2 年	3 年				計	H26 児童予測	H32 児童推計	単式	複式	特別 支援	計		
観音寺中	149	141	158				448	372	316	13		1	14		△
中部中	162	175	148				485	556	507	14		2	16		改築
伊吹中	4	4	5				13	10	8	3			3		○
大野原中	129	130	134				393	341	265	12		2	14		×
豊浜中	80	72	98				250	208	179	7		1	8		△
三豊中	159 (98)	157 (73)	165 (89)				481 (260)	388 (216)	364 (205)	15		2	17		○

注) 出典：平成 20 年度学校一覧及び市教育委員会資料。H26 は現在の乳幼児数から、H32 は県教委児童数の推計方法等による。三豊中（ ）は観音寺分。耐震×は未対策、△一部対策済、○対策済・新耐震基準

#### 4. 検討時に出された主な意見の概要

	意見（主旨）
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小規模過ぎると、十分な教員数が確保できず、図工・音楽・体育等にも支障がある。</li> <li>・ クラス替えが可能なら、問題が発生したときにも学校内で環境を変えるなど対応できる。</li> <li>・ 中学校区内に幼・小各1校だとクラス替えがあっても人間関係が固定化されてしまう。新しい人間関係で成長することもあり、複数の小学校が必要ではないか。</li> <li>・ 地域にとって学校の存在は重要。小規模でも残すべき。</li> <li>・ 分校的になっても小規模のほうが子どもに目が届き、いじめなどの問題が発生しにくいのではないか。</li> <li>・ 地域の事情より子どもの教育環境を優先すべき。子どもの望む多様な活動、教育を行う為にはある程度の規模も必要。</li> <li>・ 小規模校同士の統合で、しばらくしてまた再編議論の対象ということは避けたい。</li> <li>・ 国の基準は4kmだが低学年なら1時間徒歩で2.5kmくらい。</li> <li>・ 通学支援等を考えるとしても、小学校は歩いて行けることが基本。</li> <li>・ 統合される側と統合する側の意識の違いもあり両方の検討が必要。</li> <li>・ 距離、耐震化以外にも今の学校の大きさ、教室の広さにも着目が必要。</li> <li>・ 通学距離が長くても、子どものことを考えると適正な学校の規模、教育環境の問題を優先させたい。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要5教科で複数教員が配置できる9学級という規模は必要。</li> <li>・ 自転車通学が前提なら国の基準の6kmが通学距離の目安でよい。</li> <li>・ 校区変更は考えないのか。三豊中学はどう考えるか。（回答：この委員会では現状を前提に考えてほしい）</li> <li>・ 適正と考える規模以下になっても直ちに統廃合というわけではない。</li> </ul>
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧観音寺市地域での幼稚園2園体制の根拠はなにか。3園等の選択肢はないか。 （回答：用地の確保、園舎の整備等を考えると財政的には厳しいと思う。）</li> <li>・ 幼稚園でも集団性の育成、遊びの多様性ということで、ある程度の規模が必要ではないか。</li> <li>・ 2園の場合、園舎の整備はどうなるか。（回答：広さや老朽化の問題もあり、新築・移転を考えている。）</li> <li>・ 3歳児、給食、預かり保育についてはどうか。（回答：預かり保育については保育所等との関係もあり難しい。）</li> </ul>

## 【中間取りまとめ案】

### 1. 基本方針（望ましい学校規模等）

#### ○ 小学校

クラス替えが可能な各学年2学級以上、12学級以上を望ましい学校規模とする。通学距離は、低学年の児童が1時間程度で歩ける2.5kmを目安とし、それを超える場合は必要に応じて通学支援策を考慮する。

#### ○ 中学校

主要五教科で複数の教員が配置可能な9学級以上を望ましい学校規模とする。通学距離は、自転車通学を考慮し6kmを目安とする。

#### ○ 幼稚園

少子化の進捗、私立幼稚園や保育所の設置状況を鑑み、遊びの多様性、集団性の育成の観点から、各年齢で複数の学級が確保できるよう、観音寺全域で市立幼稚園4園体制に向け段階的に再編統合を進めていく。通園については、徒歩、保護者の送迎、必要に応じて通園支援策を考慮する。

### 2. 再編の基準（配慮点）

- ① 幼稚園、小学校、中学校の接続に配慮して現在の中学校区を基本として再編を考える。
- ② 校舎等の老朽化、耐震化の状況を考慮する。
- ③ 校区変更は考えない。（別の議論とする）

### 3. 学校再編計画案

#### 【小学校】

	学校名	前期 (概ね5年以内)	後期 (概ね10年以内)	将来構想	備考
観音寺中校区	観音寺南小	観音寺南小と 観音寺東小の統合。	⇒	高室小の児童数の推移を 考慮しつつ、観南・観東 の統合小との統合を検討 する。	ドーナツ化が進み人口減少が激しい。地域活 動は共同の場合も多い。校舎老朽化の問題。
	観音寺東小				
	高室小	⇒	児童減少率は比較的少ない。		
中部中校区	常磐小	⇒		⇒	住宅開発が進むなど人口減少が少ない地域で あり今後の推移を見守る。
	柞田小	柞田小と栗井小を統 合。 (栗井小と豊田小の 統合意見有。)	⇒		平成26年入学予定者が7名となるなど減少が 激しい。
	栗井小				
三豊中校区	豊田小	単独。 (豊田小と栗井小の 統合意見有。)	⇒	小規模化が懸念され統合 の検討も必要。	住宅開発が進むなど人口減少が少ない地域で あり今後の推移を見守る。
	一ノ谷小	⇒			

大野原中校区	大野原小	大野原小 萩原小 紀伊小の統合	⇒	
	萩原小			H30 頃には 1 学年 10 名程度に減少予想
	紀伊小			H26 頃には複式学級の可能性
豊浜中校区	豊浜小		⇒	旧豊浜町時代に統合した。

【中学校】

- 当面、現状の枠組みを維持する。三豊中学校区の動向、将来的に豊浜中が過小規模となる可能性がありそのときには対応が必要となる。

【幼稚園】

園名	現在の状況 (H20. 5. 1)	前期 (概ね 5 年以内)	後期 (概ね 10 年以内)	将来構想	備考
観音寺幼稚園	3才 51名、4才 36名、5才 40名 127名 S49 建築	観音寺・高室・常磐の三園を統合する。旧観音寺市北部地域。	⇒		交通体系、動線を考慮して配置。移転、園舎新築を考慮。
高室幼稚園	4才 18名、5才 13名 31名 H2 建築 借地有				
常磐幼稚園	4才 36名、5才 29名 65名 S31. 44 建築				
一ノ谷幼稚園	4才 16名、5才 24名 40名 H2 建築	⇒	旧観音寺市南部地区で統合幼稚園の設置。	⇒	移転、園舎新築を考慮。一ノ谷幼は南部地区園の設置場所を勘案し北部地区園への統合も検討。
柞田幼稚園	3才 33名、4才 44名、5才 36名 113名 S41. 49 建築 借地有	⇒			
豊田幼稚園	4才 10名、5才 14名 24名 S31. 47 建築	⇒			
大野原幼稚園	3才 78名、4才 103名、5才 93名 274名 S57. H6 建築		⇒		
豊浜幼稚園	3才 40名、4才 63名、5才 58名 161名 S41. 49 建築		⇒		